

2023年度日本思想史研究会

日本思想史における「世相史」 —柳田国男『明治大正史 世相篇』を中心に—

目的

柳田国男『明治大正史 世相篇』の輪読を通して、戦後思想史における「世相史」の諸相をとらえる。

運営方法

・Zoomによるオンライン開催とともに、ハイブリッド開催の運用を試みた。今年度は15回開催した。

・春学期（5～8月）

ZOOMによるオンライン形式で開催した。柳田国男の『明治大正史 世相篇』の輪読報告を行った。報告者が資料を作成し、それに沿って輪読を行った。

・秋学期（10～1月）

Zoomによるオンライン開催とともに、一部の例会ではハイブリッド開催を実施した。各自の研究領域を基盤に、春学期の議論と関連させて報告を行った。

主な研究内容

- ・ 渡勇輝「「世相史」の視角——『明治大正史 世相篇』刊行と受容をめぐって」
- ・ 古文英「幕末期の「陽明学者」と儒学の近代化論」
- ・ 中井悠貴「白鳥敏夫と「八紘一宇」理念」
- ・ 岑静雯「羽仁五郎とその「明治維新史」研究」
- ・ 鈴木健吾「国民的歴史学の残照—黒田俊雄の地域史—」
- ・ キム・ナヒョン「阪谷朗廬とその思想に対する一考察」
- ・ 星優也「ある日蓮主義者の華道研究——松尾鼓城をめぐって——」
- ・ 福井優「神島二郎の異端論」
- ・ 小糸咲月「1910年代における土田杏村の「文明批評」観の形成—学生時代を中心に—」

総括と今後の課題

・ 輪読では、初出時の動向をおさえると同時に、戦後における再評価文脈を問いなおすことで重層的な読解を行うことができた。

→方法論の出現が同時代の社会問題と結びついていたことをより立体的に考えていく必要がある。

会誌の発行

・ 『日本思想史研究会会報』第40号を発行した。中井悠貴「白鳥敏夫と「八紘一宇」理念——「皇国日本」による世界新秩序理念の導出をめぐって」、鈴木健吾「住民運動と戦後歴史学——黒田俊雄よりみる」を論文として掲載した。



日本思想史研究会会報 第40号	
目次	1
渡勇輝「「世相史」の視角——『明治大正史 世相篇』刊行と受容をめぐって」	1
古文英「幕末期の「陽明学者」と儒学の近代化論」	10
中井悠貴「白鳥敏夫と「八紘一宇」理念」	20
岑静雯「羽仁五郎とその「明治維新史」研究」	30
鈴木健吾「国民的歴史学の残照—黒田俊雄の地域史—」	40
キム・ナヒョン「阪谷朗廬とその思想に対する一考察」	50
星優也「ある日蓮主義者の華道研究——松尾鼓城をめぐって——」	60
福井優「神島二郎の異端論」	70
小糸咲月「1910年代における土田杏村の「文明批評」観の形成—学生時代を中心に—」	80
編集	90

日本思想史研究会（京都）
2024年3月

2023年4月15日（土）15:30～
立命館大学学術館
プレゼンテーションルームA&B

目次

- 2023年度の会計報告
2023年度幹事会の選挙・選任
2023年度幹事会長就任の挨拶
- 新入生歓迎委員会
後志輝「新入生総合研究・特別研究員」
「椅子のバースペクタビリティ」——神道と其制作、を中心に——
- 懇談会

実施形態
対面形式とZOOMによるオンライン開催

申し込み方法
参加希望者は前日（4月14日）までに下記へご連絡ください：
shihisakiken@st.zri.ac.jp


